

地域連携の推進に向けた事前アンケートの回答

東京都保健医療局医療政策部

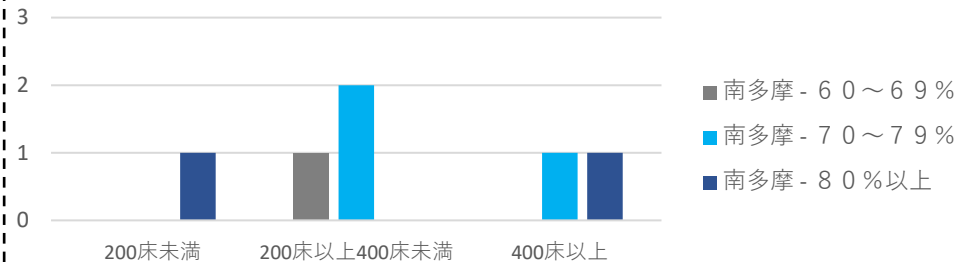
事前アンケートの結果（南多摩）

病院としての主な機能別の回答状況	
病院としての主な機能	病院数
高度急性期	1
急性期/サブアキュート	7
回復期/ポストアキュート	1
慢性期	5
ケアミックス（急性期・回復期）	5
ケアミックス（回復期・慢性期）	4
その他	8
計	32

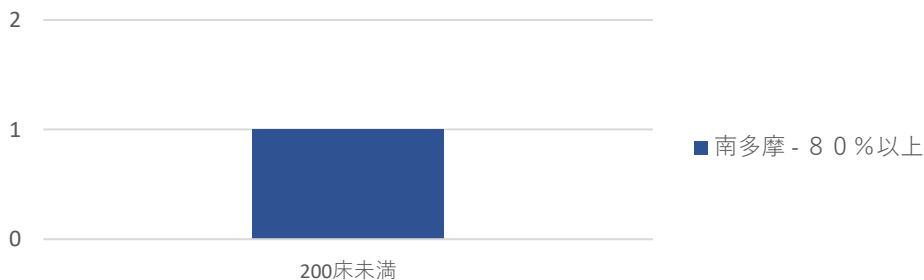
許可病床数別回答病院数	
許可病床数	病院数
200床未満	13
200床以上400床未満	10
400床以上	8
計	32

■ 病床機能別稼働率【許可病床の規模別】

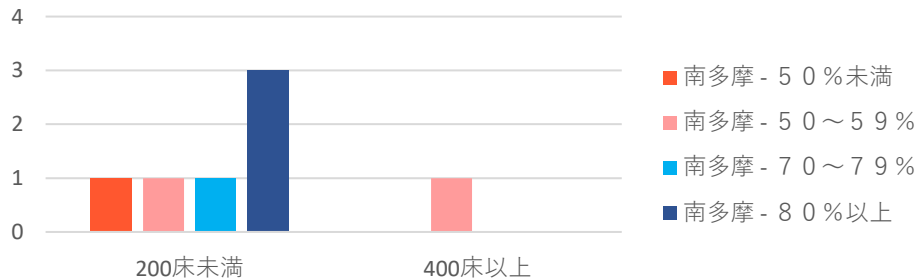
急性期 1



急性期 2・3

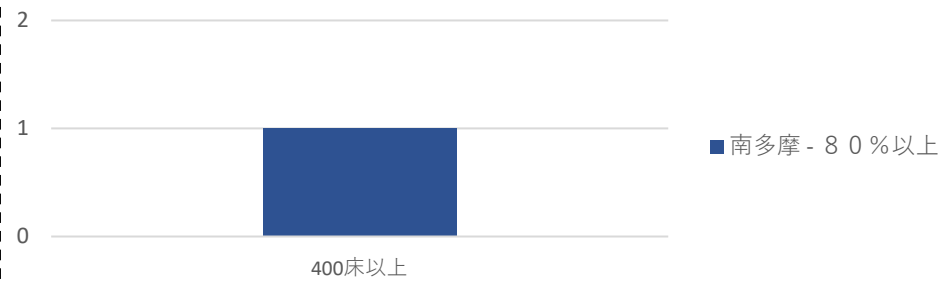


急性期 4～6

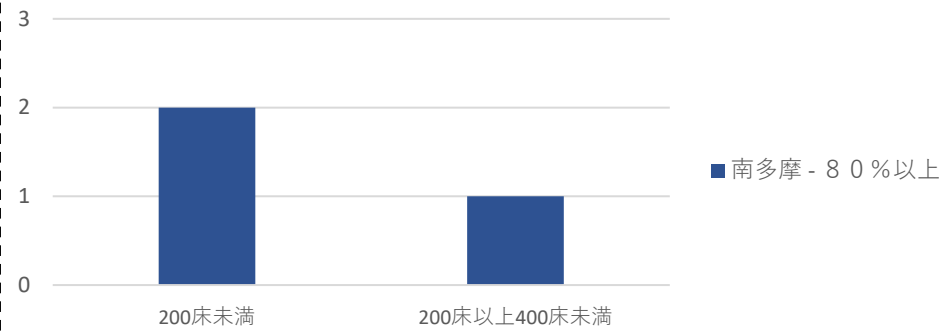


事前アンケートの結果（南多摩）

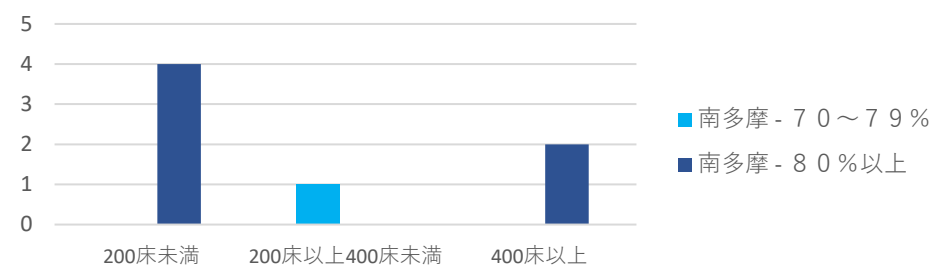
地域一般 1 ～ 3



地域包括医療

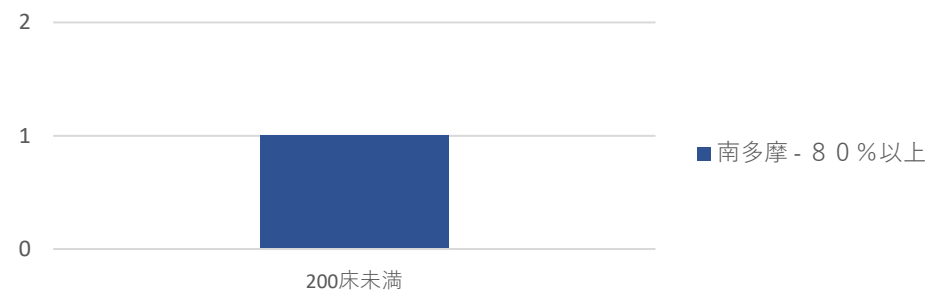


地域包括ケア 1 ・ 2



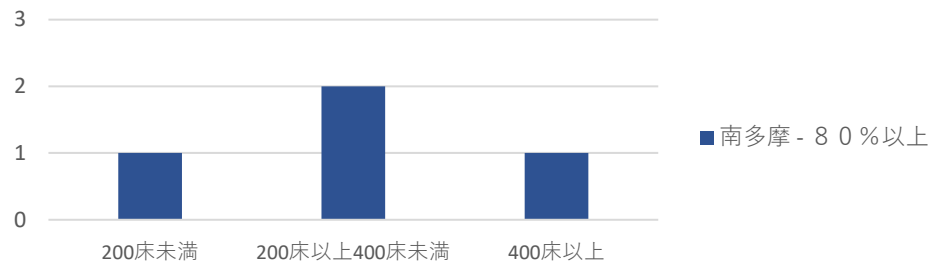
地域包括ケア 3

地域包括ケア（療養病床）



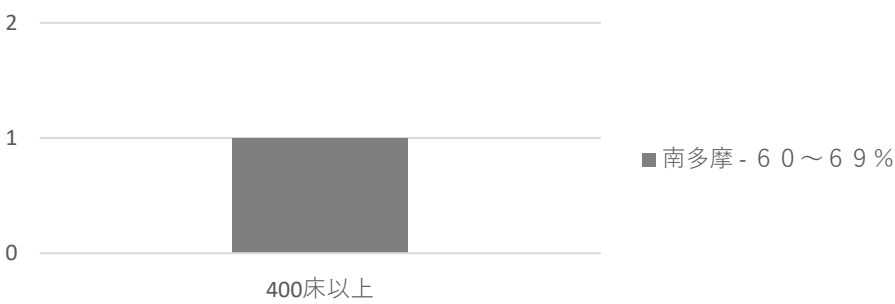
事前アンケートの結果（南多摩）

回復期リハ 1・2

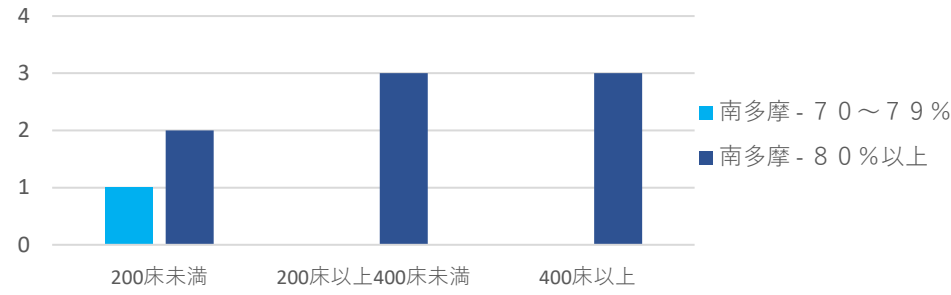


回復期リハ 3・4

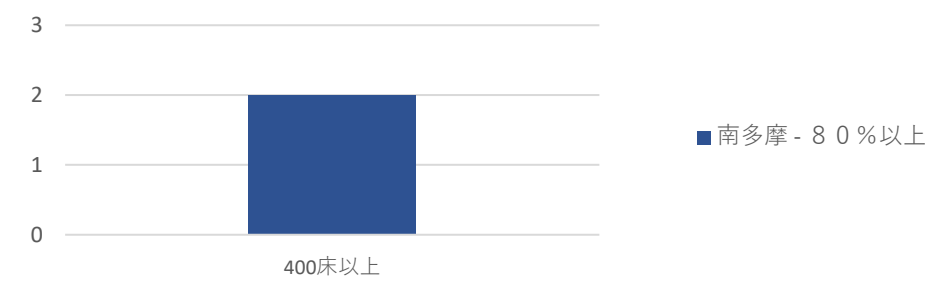
回復期リハ 5



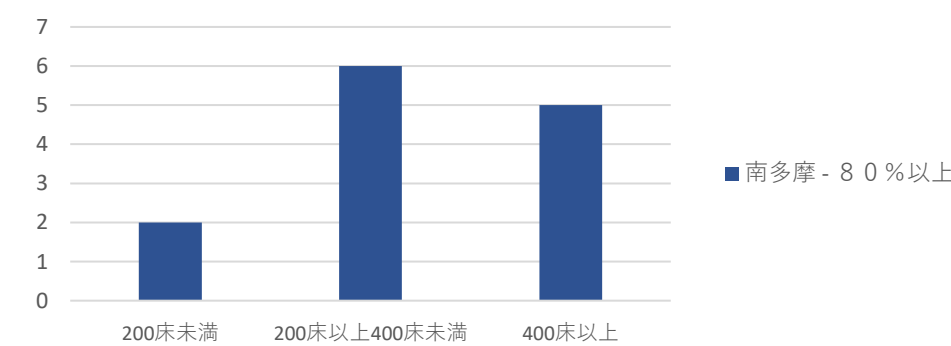
療養病床



介護医療院

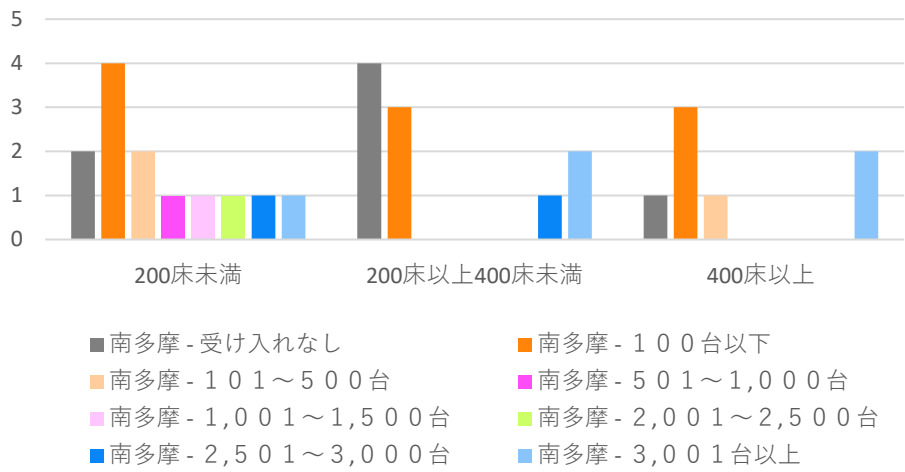


その他（精神病床、障害者施設等病床）

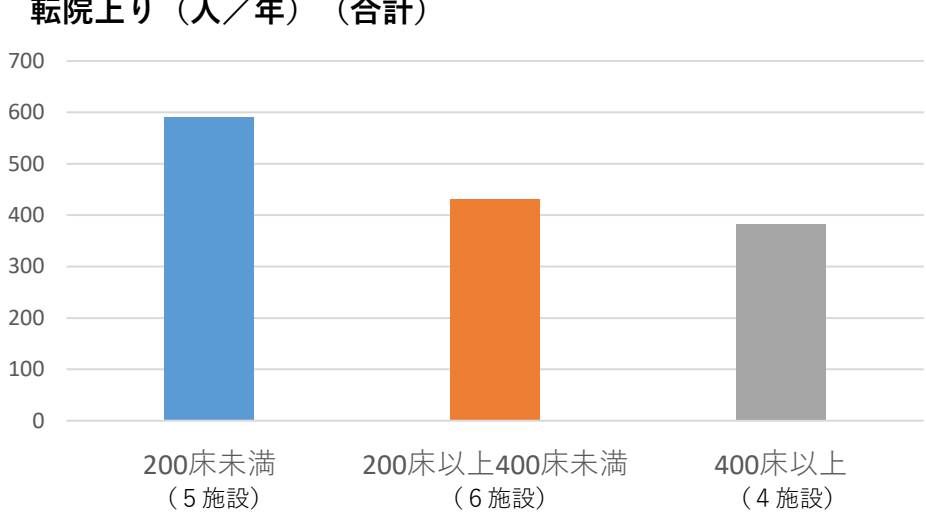


事前アンケートの結果（南多摩）

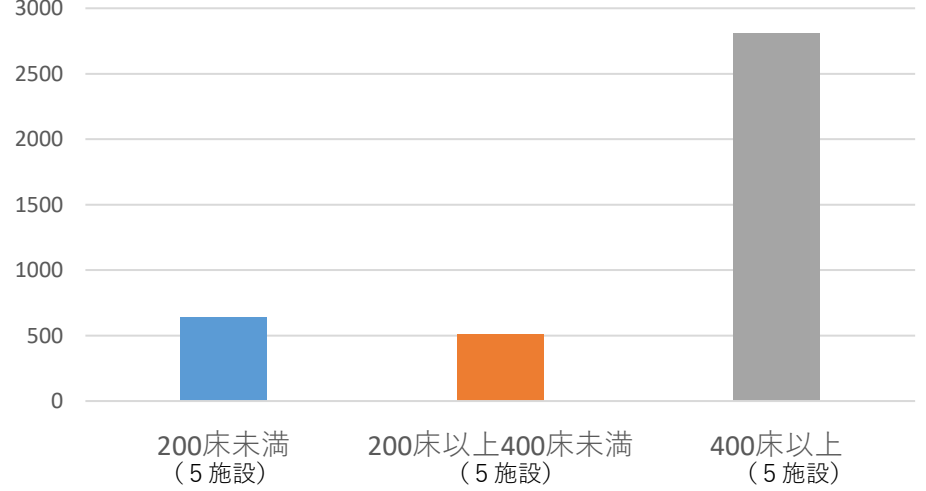
■ 令和5年度救急車受入台数



■ 令和5年度地域連携入退院患者数



転院下り（人／年）（合計）

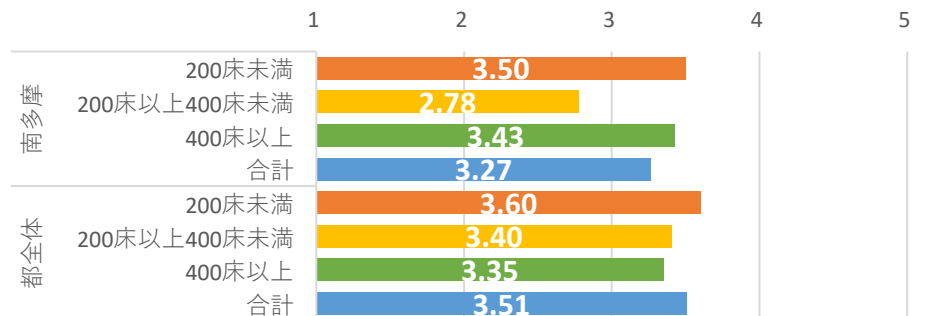


事前アンケートの結果（南多摩）

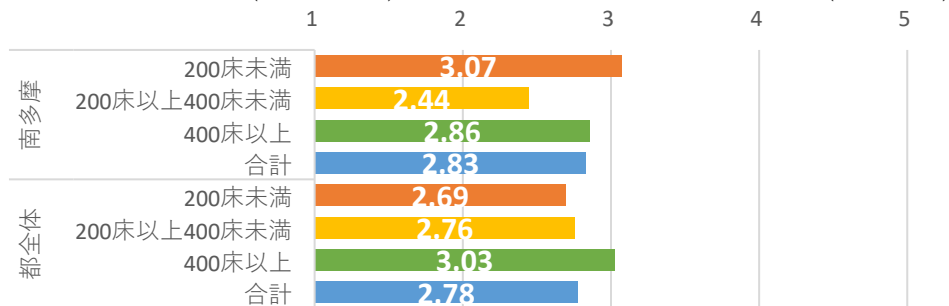
■ 連携等に関する影響について

《緊急搬送・予定転院》

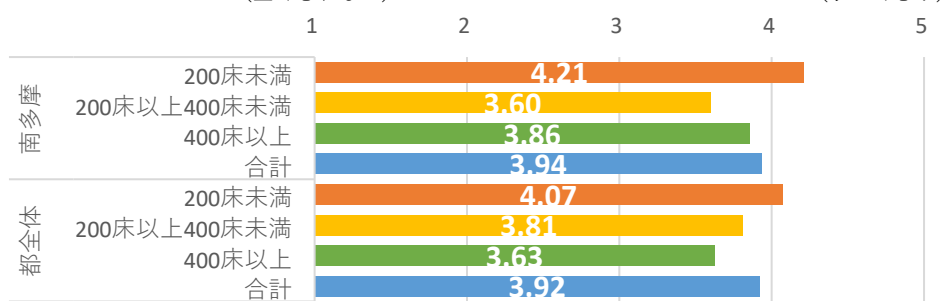
平日・日昼の緊急搬送において、相手先の病院と円滑になされていると思いますか。
(全く思わない) (すごく思う)



休日・夜間の緊急搬送は相手先の病院と円滑になされていると思いますか。
(全く思わない) (すごく思う)

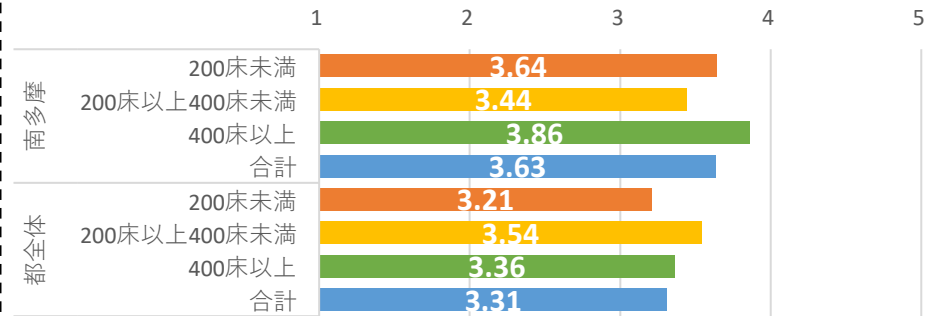


予定転院において、相手先の病院と円滑になされていると思いますか。
(全く思わない) (すごく思う)

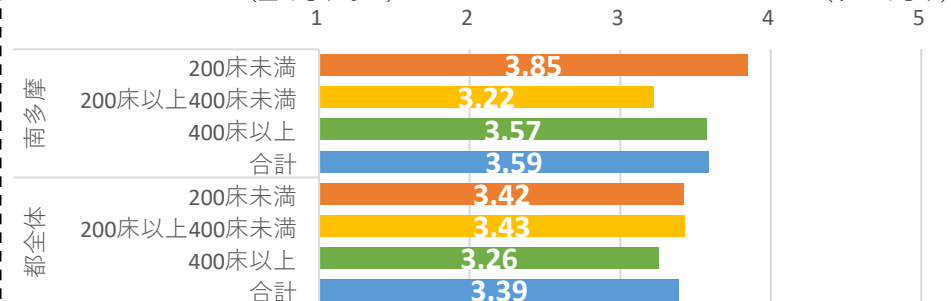


《受入側としての要望》

早期の転院を（迅速に）受け入れするに当たり、診療科を絞れば受け入れは可能と思いますか。
(全く思わない) (すごく思う)



早期の転院を（迅速に）受け入れするに当たり、患者の重症度を限定すれば受け入れは可能と思いますか。
(全く思わない) (すごく思う)

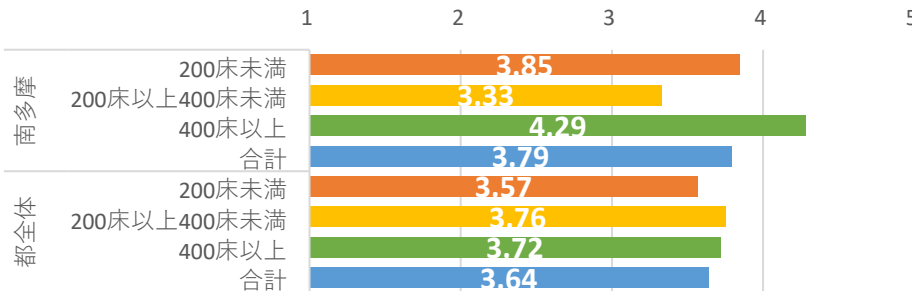


事前アンケートの結果（南多摩）

《自院の課題》

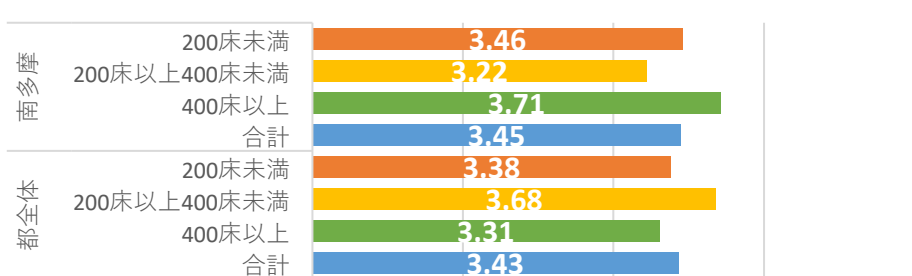
自院の医師が潤沢であれば、積極的に受け入れすることが可能だと思いますか。

(全く思わない) 1 2 3 4 5 (すごく思う)



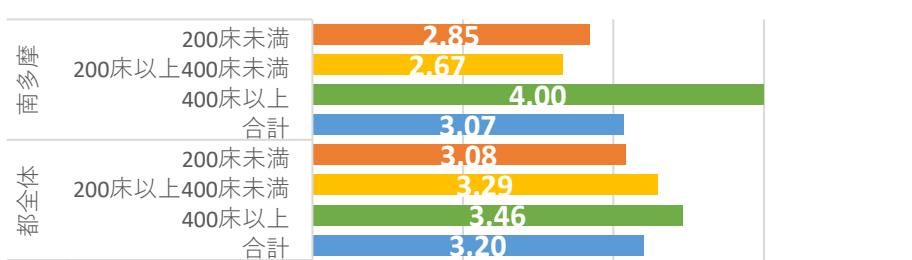
自院の医師以外の職員が潤沢であれば、積極的に受け入れすることが可能だと思いますか。

(全く思わない) 1 2 3 4 5 (すごく思う)



自院のベッドコントロールが改善されれば、積極的に受け入れすることが可能だと思いますか。

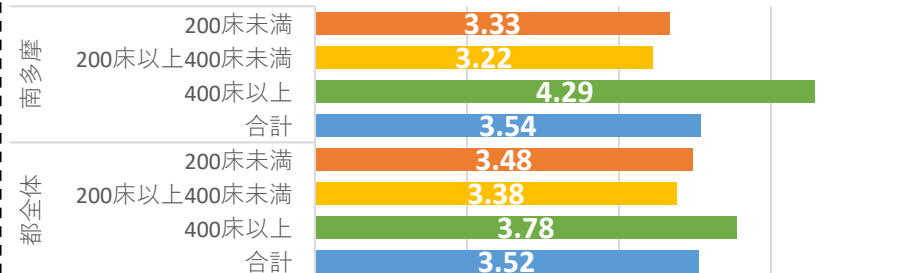
(全く思わない) 1 2 3 4 5 (すごく思う)



《患者側の課題》

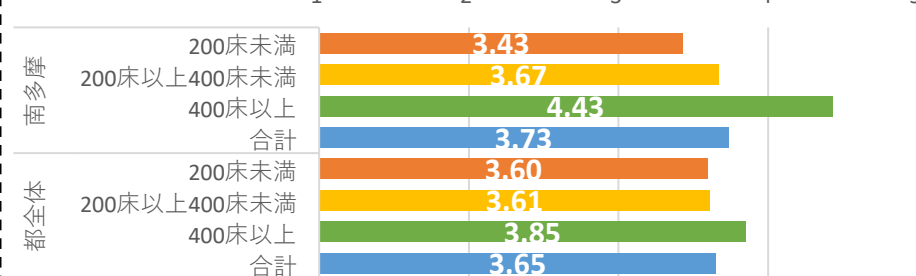
患者側の理解さえ早く得られれば、早期に転院させることが可能だと思いますか。

(全く思わない) 1 2 3 4 5 (すごく思う)



患者家族の理解さえ早く得られれば、早期に転院させることが可能だと思いますか。

(全く思わない) 1 2 3 4 5 (すごく思う)

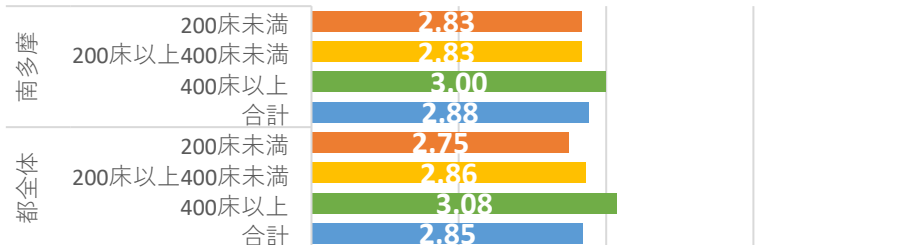


事前アンケートの結果（南多摩）

《下り転院の問題（主に急性期病院が回答）》

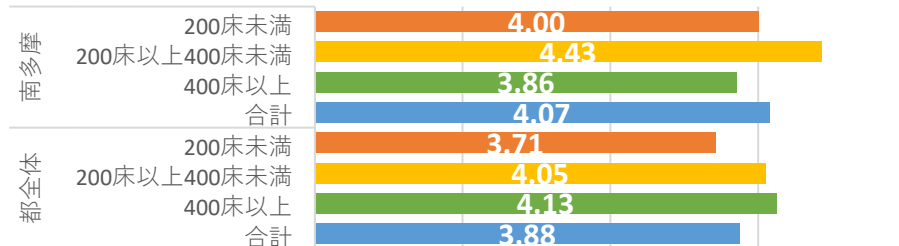
過去に病状が落ち着いたことで転院した患者が、悪化等で再び自院に戻ることがありますか。

(全くない) 1 2 3 4 (すごくある) 5



過去に様々な病気を抱えた（複雑な）患者を転院させるにあたり、転院先がなかなか決まらないことがありましたか。

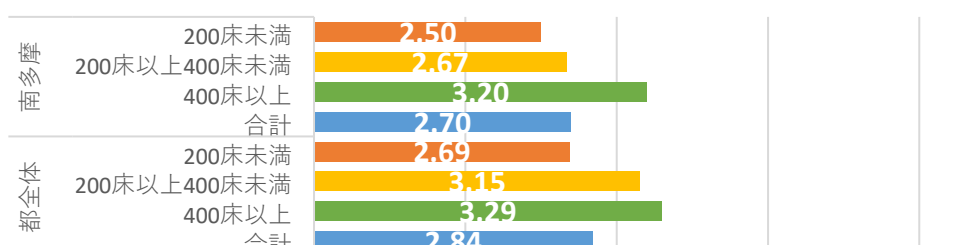
(全くない) 1 2 3 4 (すごくある) 5



《下り転院の問題（主に回復期・慢性期病院が回答）》

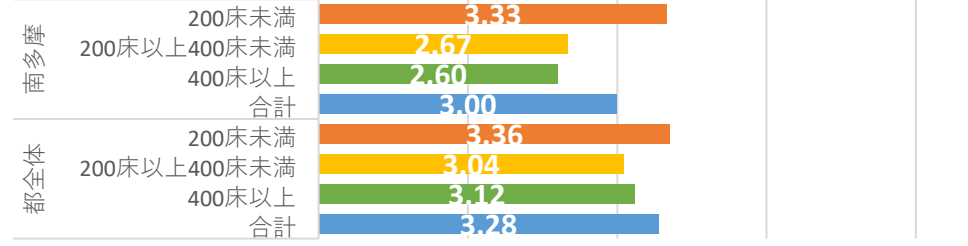
過去に病状が落ち着いたことで転院された患者が、悪化等で再び前医に再入院されたことがありますか。

(全くない) 1 2 3 4 (すごくある) 5



過去に急性期病院から様々な病気を抱えた（複雑な）患者の転院依頼があった際に、お断りしたことはありますか。

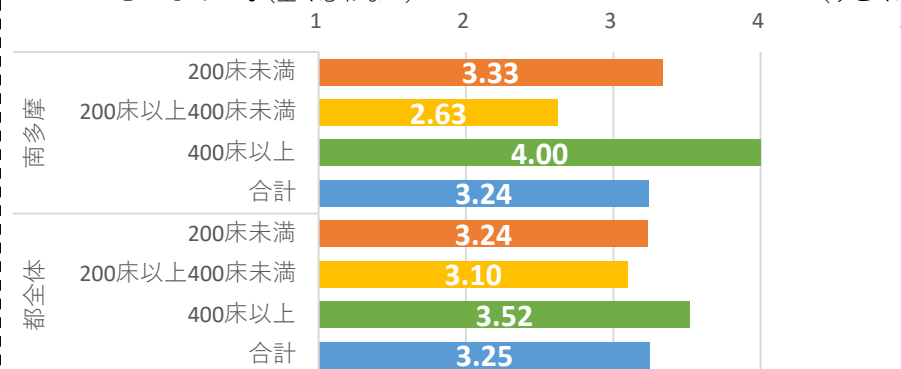
(全くない) 1 2 3 4 (すごくある) 5



事前アンケートの結果（南多摩）

《連携の進捗度》

平成28年の地域医療構想策定当初と比べて、全体的に地域での連携が進んだと思いますか。(全く思わない) (すごく思う)



■ 連携等に関する影響への対応

自院や地域として対応している取組

- ・ 近隣医療機関との情報共有
- ・ 近隣の急性期病院とは、転院システムを用い速やかな紹介を受けている。又、身寄りのないケースなどは先方に出向いて入院相談などを行ったり、他職種によるWEBカンファレンスを行っている。
- ・ 普段からの顔の見える連携
- ・ 紹介元医療機関と当院でオンライン会議を行い依頼を受ける(参加者 医師、看護師、ソーシャルワーカー)、ウェブを利用した転院システム
- ・ 医療機関訪問を行い、対応可能疾患等について情報交換を行っています。
- ・ 令和6年度より一般病棟を開設。即時受け入れの取り組みを強化している(下り患者受け入れ)
- ・ 下り転院の依頼があった際は可能な限り早く受け入れられるよう院内調整を行っている
- ・ 医師と地域の医療機関へ訪問し顔の見える関係づくりを行っている。
- ・ 地域の医療機関や施設、居宅事業所とよりスムーズな連携を行えるよう、定期的な訪問や、電話でコミュニケーションをはかるといった取り組みを当院では継続して行っている。

事前アンケートの主な意見（南多摩）

■ 自院や地域として対応していくべき取組の考えやイメージ

- ・地域の医療機関、施設等と連携していくということは地域づくりの側面もあると思う。医療を通じてどのような地域にしていきたいのか、何をしていくのかを地域に発信することが必要だと思われる。そのうえで医療機関や施設だけでなく自治会や地区社協を巻き込んだネットワークづくりを行っていきたい。
- ・連携医登録の活用
- ・ケアミックスを活かし、亜急性期の早急な受入を実施している。医療・介護・福祉分野を支える地域に根差した病院。
- ・ACPの普及
- ・まごころネット八王子(医療クラウド上で管理した患者様の医療介護情報を共有できるシステム)の活用
- ・医師の充足。患者状況によって適切な受け入れ先を探すよう心掛けている。
- ・都内だけでなく、近隣都道府県との機能分化を推進することです。
- ・疾患によっては、同じく新設した回復期リハビリテーション病棟にて集中的なリハビリテーションを提供し、在宅復帰支援への取り組みを強化していきたいと考えています。
- ・下り搬送の受け入れ側として「病状が落ち着いた」のでと依頼が来るも、その状態に”送る側””受け入れ側”で認識のギャップがあり依頼が発生しないケースが生じてしまうこと

■ 地域連携の推進についての意見

- ・令和5年度は内科病床が稼働していたため、救急や地域連携があったが令和6年度は精神科のみの稼働となったため、かなり状況が変わります
- ・転院調整等のシステムサービスが発展しているが、複数存在し煩雑に。統一化されれば望ましい。
- ・全国電子カルテの一本化
- ・救急患者の迅速な受け入れ体制が強化されると良いと思います。
- ・地域連携が活発になり機能分化による転院も増えてきましたが、下り搬送の場合、提供できる医療のレベルが違うことを十分に患者側に理解いただけていないと転院後に「聞いていた話と違う」といったトラブル案件になってしまい患者側にとっても受け入れた病院にとっても良い選択にならない場合がある。急変時体制についても差があるため受入病院としては急変時の意向確認はリスク管理の上で重要項目となっている。
- ・上り転送の受け入れ相談が短時間で行えるような、地域で共有・共同できるシステムがほしい